

# 総会報告

## 第3回定時総会報告

日 時：平成25年3月19日(火) 13時00分～14時30分

会 場：本郷瀬川ビル（東京都文京区本郷2-35-10）

出席代議員数：47名（内委任状30名）

（代議員数総数：55名、総会成立の定数28名以上）

議 案：

- |                |         |
|----------------|---------|
| (1) 平成24年度事業報告 | 【第1号議案】 |
| (2) 平成24年度決算報告 | 【第2号議案】 |
| (3) 平成25年度事業計画 | 【報告資料1】 |
| (4) 平成25年度予算計画 | 【報告資料2】 |
| (5) 平成25年度役員の手 | 【第3号議案】 |

議 事：

午後1時00分、定款第15号に基づき川村貞夫会長が議長となり、出席者が定款17条に定める定足数に達しているとの旨報告の上、第3回定時総会の開会を宣した。

次いで、以下の各議案について提案および詳細な説明があり、逐次審議を行った結果、いずれも原案どおり異議なく可決された。

各議案の内容は以下のとおり。

### 【第1号議案】

#### 平成24年度 事業報告

（自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日）

#### I. シンポジウム（継続事業1）

##### 1. 学術講演会市民公開行事

###### (1) 学術講演会第30回記念講演

講師：寺島実郎 氏（日本総合研究所理事長）

タイトル：日本創生に問われるイノベーションという視点

来場者数：600名

###### (2) 一般公開パネルディスカッション

災害対応ロボットと可能性（戦略セッション）

来場者数：200名

###### (3) ロボットコンテスト

###### 1) ロボットトライアスロン

###### 2) RSNPを利用したロボットサービスコンテスト

###### (4) ロボット工作教室

###### 1) ロボットデザインワークショップ

###### 2) お絵かきロボットを作ろう

#### II. 学会誌（継続事業2）

学会誌第30巻1号～10号を発行し、会員に配布した。各号の特集テーマは次のとおりである。

第30巻1号 共創知能システムプロジェクト

第30巻2号 パラレルメカニズムと実用化

第30巻3号 つくばチャレンジ論文特集号

第30巻4号 2足歩行ロボット技術

第30巻5号 ヒトの触覚特性を活かす

第30巻6号 広がるテレロボティクス

第30巻7号 第29回日本ロボット学会学術講演会論文特集号I

第30巻8号 第29回日本ロボット学会学術講演会論文特集号II

第30巻9号 ロボティクス研究のためのソフトウェアツールI

第30巻10号 創立30周年記念特集号－ロボット学会新世代：世界に向かって

特集号企画については、会員の幅広い興味に応えられるように、知能、機構、制御、センシングなど多様な分野に関する特集を企画した。

また、原子力発電所事故対応で注目されたテレロボティクスの特集も発行した。さらに、ロボティクス研究を促進するためのソフトウェアツールについて特集を企画した。今年度6年目を迎えた学術講演会論文特集号は、定番企画として定着している。普段投稿が少ない研究分野からの論文投稿を促し、投稿件数が増えることでより質の高い論文が多く掲載されるなど、ロボット学を活性化する重要な役割を担っている。今回は、芝浦工業大学豊洲キャンパスで開催された第29回学術講演会での講演論文から、新しいコンセプトの提案、優れた学術成果、有用な技術に対し、200件の論文投稿を推薦し56件の投稿を得て、査読結果に基づき最終的に2号合計で18件の論文を掲載した。さらに、本年度は、学術講演会論文特集号に加えて、「つくばチャレンジ」の論文特集号を発行した。論文の査読では狭い意味での学術的なオリジナリティが重視されがちである。しかし、実際に役立ち、研究コミュニティが共有すべき情報を含んだものは積極的に論文に採録する必要があると考えて、この特集号を企画した。最後に、今年は学会創立30周年にあたるが、本年度の最終号では、それを記念した特集号を発行した。

年間の論文投稿件数は162件（前年度184件）、判定結果は採録可49%（50%）、採録不可（再投稿を推薦）36%（27%）、採録不可15%（23%）であった。判定までの期間は平均111日、最短38日、最長258日（93日、29日、195日）で、掲載までの期間は平均337日（289日）であった。再投稿を推薦した論文の再投稿率21%（38%）、採録率89%（88%）であった。なお、評価点項目別の採録率は、学術性52%、有用性47%、提案性50%となっている。また、システム統合化技術、実環境における実証実験、ロボットと社会のかかわりや教育など従来では学術論文として採録が困難であった分野の論文の投稿を積極的に奨励し、適切に採録できるような査読システムの見直しを検討している。

一般記事に関しては、ロボティクス関連の国内外の様々な学会に関する報告を掲載した。また、27巻1号から開始した著名な研究者や企業の方々、アドバイザーボードを対象としたインタビュー形式の記事を引き続き掲載した。学会および学会誌の広報普及活動として、ロボコママガジンにロボット学会協力記事として中高生から一般向けにロボット研究・技術について紹介する記事を掲載しており、その執筆を推薦した。ロボット工学の位置づけを一般の方々にもご理解いただくため、学術的な研究紹介とともに親近感を持てる成果や実用的な研究紹介を合わせて掲載されるようにした。

これまで、学会誌のインターネットを通じた閲覧は三美印刷の提供するシステムとJSTの提供するJ-STAGEの二つがあったが、平成24年5月からJ-STAGEに一本化された。ただし、J-STAGEでは会告等はアーカイブされないため、これについては学会のホームページにPDF化した会告を掲載するようにした。さらに、学会誌を補遺する電子付録的なものも学会ホームページに掲載することを始めた。

広告に関しては、件数については前年度の52件から72件に増加したが、金額としては15万円増程度で、目標額550万円に対して達成率は88%であった。

#### III. 欧文誌（継続事業3）

##### 1. 欧文誌（Advanced Robotics）編集・発行

Vol. 26を発行した。各号の詳細は以下のとおりである。

26/5-6 Mar Regular Issue (12 papers/pp. 409-687)

26/7 Apr Soft Robotics (7 papers/pp. 689-816)

26/8-9 May Regular Issue (13 papers/pp. 817-1098)

26/10 Jun Cutting Edge of Robotics in Japan (5 papers/pp. 1099-1203)

26/11-12 Jul Regular Issue (9 papers/pp. 1205-1418)

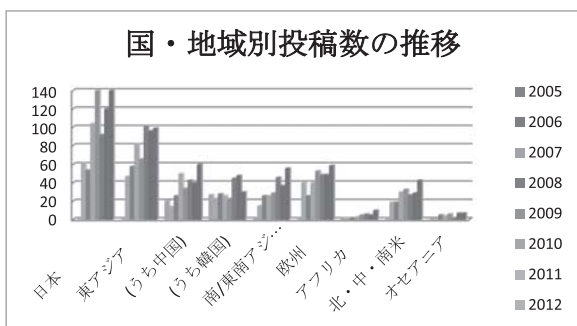
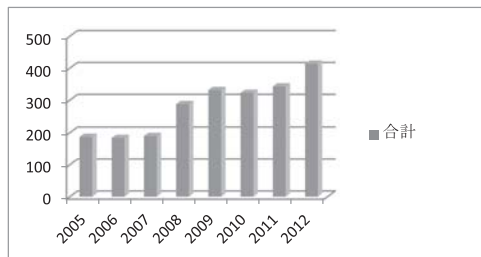
26/13 Aug Regular Issue (5 papers/pp. 1419-1536)

26/14 Sept Sensor Info Processing in Robot Competition & Real World Robot Challenge (5 papers/pp. 1537-1691)

- 26/15 Oct Regular Issue (5 papers/pp. 1693-1823)
- 26/16 Nov Regular Issue (5 papers/pp. 1825-1937)
- 26/17 Dec Selected Papers from IROS2011 (6 papers/pp. 1939-2085)
- 26/18 Dec Regular Issue (4 papers/pp. 2087-2188)

2. 論文の投稿, 査読の状況

平成 24 年 (2012 年) における年間論文投稿総数は 414 件 (一般論文・299 件, 特集号論文・115 件) であった (下表参照). 投稿論文の採択率は, 27.6% (一般論文 24.1%, 特集号 37.4%) であった.

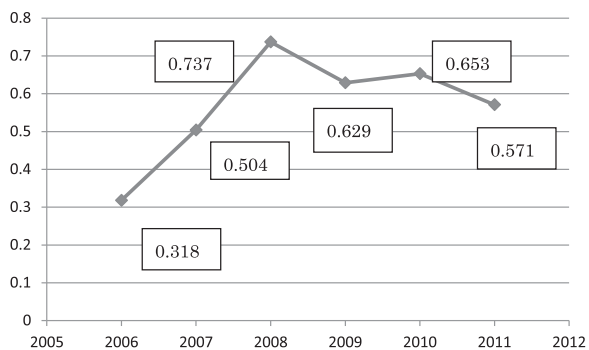


3. 企画 / 編集 / 発行作業

投稿論文数の増加を目指して, 昨年同様, 日本の優れた研究を世界に発信する特集号「Cutting Edge of Robotics in Japan」企画し, 学術講演会論文発表者への論文投稿を呼びかける活動を行った.

4. 国際学術誌としての認知度と評価の向上

Institute for Scientific Information (ISI) 社の Citation Index (インパクトファクタ) の推移を以下に示す. 2011 年のインパクトファクタは減少しているものの, ロボティクス分野においては 15 位と, 他誌に比較して, 落ちています. 2010 年に 18 号化となったためインパクトファクタを増やすという意味では技術的に不利があるが, 投稿料無料という著者に対するメリットと, Taylor & Francis 社との連携を通して, インパクトファクタ向上を進めていく.



5. 共同事業者である Taylor & Francis 社との契約・交渉

以下のような契約内容の更新を行った.

2013 年 (Vol. 27) 年間発行数: 18 号

1. 会員全員の電子購読料金 24,000 ユーロ / 年
2. プリント版 会員価格 360 ユーロ (送料込み)

IV. 調査・研究 (継続事業 4)

1. 研究調査活動 (定款第 4 条 3 号)

前年度から継続して, 以下の研究専門委員会活動を実施.

a. 研究専門委員会

委員会名	委員長	発 足	継 続	種別
安心ロボティクス研究専門委員会	新井健生	2012 年 4 月	—	I 種
データ工学ロボティクス研究専門委員会	大野和則	2012 年 4 月	—	I 種
ネットワークを利用したロボットサービス研究専門委員会	成田雅彦	2010 年 3 月	2012 年 3 月	I 種
生活機能構成学に関する研究専門委員会	西田佳史	2009 年 10 月	2011 年 4 月	I 種
RT 機能安全研究専門委員会	山田陽滋	2009 年 4 月	2011 年 4 月	I 種
関西ロボット系若手研究者ネットワーク研究専門委員会	池田篤俊	2009 年 4 月	2011 年 4 月	I 種
ヒューロビント研究専門委員会	松下光次郎	2009 年 4 月	2011 年 4 月	I 種
ロボット教育研究専門委員会	琴坂信哉	2008 年 8 月	2012 年 8 月	II 種
ヒューマンセントリックロボティクス研究専門委員会	山本元司	2008 年 4 月	2012 年 4 月	I 種
北海道ロボット技術研究専門委員会	小林幸徳	2008 年 4 月	2012 年 4 月	I 種
カー・ロボティクス研究専門委員会	内山 勝	2008 年 4 月	2012 年 4 月	I 種
ロボティック・サイエンス研究専門委員会	國吉康夫	2008 年 4 月	2012 年 4 月	I 種
手の巧みさ研究専門委員会	星野 聖	2007 年 1 月	2013 年 1 月	II 種
ロボティクスにおける空間の知能化及び構造化に関する研究専門委員会	新妻実保子	2007 年 1 月	2013 年 1 月	II 種

b. 調査研究委員会

委員会名	委員長	発 足
東日本大震災関連調査研究委員会	川村貞夫	2011 年 11 月
広域災害対応に関する技術基盤調査研究委員会	浅間 一	2013 年 1 月

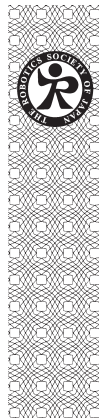
V. 表彰 (継続事業 5)

1. 表彰 (定款第 4 条 4 号)

- ・ 2012 年 9 月第 30 回学術講演会において, 論文賞 4 件, 実用化技術賞 2 件, 研究奨励賞 9 件, ロボティクスシンポジウム研究奨励賞 3 件, 功労賞 2 件, ロボット活用社会貢献賞 2 件の贈賞を行った.

【論文賞】

- ・ 習熟度を考慮した自己組織的動作識別法の構築 (日本ロボット学会誌 第 28 巻 第 7 号, pp. 783-791)
- ・ 北佳保里 (東京大学 現・(株) 国際電気通信基礎技術研究所 (ATR)), 加藤 龍 (電気通信大学), 横井浩史 (電気通信大学・東京大学)
- ・ 自己調整学習メカニズム: オープンエンドな環境で発達するエージ



## エントの自律行動学習原理

(日本ロボット学会誌 第29巻 第1号, pp. 77-88)

星野由紀子, 河本献太, 野田邦昭, 佐部浩太郎 (ソニー (株))

- ・ばね-リンク機構を用いた外殻型2自由度屈曲マニピュレータの開発  
(日本ロボット学会誌 第29巻 第6号, pp. 523-531)

荒田純平, 齊藤善崇, 藤本英雄 (名古屋工業大学)

- ・水平床反力限界を考慮した2脚ロボットの走行歩容生成  
(日本ロボット学会誌 第29巻 第9号, pp. 849-856)

竹中 透, 松本隆志, 吉池孝英, 城倉信也 (本田技術研究所)

## 【実用化技術賞】

- ・福島第一原子力発電所建屋内探査用ロボットシステム  
小柳栄次, 吉田智章, 西村健志 (千葉工業大学)
- ・自動車用ターボチャージャの力制御組立ロボットシステム  
柴崎暢宏, 稲村 渡, 塩形大輔, 藤井正和, 曾根原光治 ((株) IHI),  
大北明弘, 奈良尾利英, 下島安昭 ((株) IHI ターボ)

## 【研究奨励賞】

- ・石井裕之 (早稲田大学)  
小型移動ロボットを用いた精神疾患モデル動物の開発/第29回日本ロボット学会学術講演会 (2P2-2)
- ・株本憲一郎 (東京農工大学)  
細胞から構築する生体ロボティクス/第29回日本ロボット学会学術講演会 (1D2-4)
- ・上出寛子 (大阪大学)  
ヒューマノイドの一般的心理評価尺度の開発/第29回日本ロボット学会学術講演会 (1J3-4)
- ・鷲坂隆志 (東京大学)  
皮膚の変形に追従する高密度触覚センサグループの開発/第29回日本ロボット学会学術講演会 (3L2-3)
- ・辻田哲平 (東北大学)  
MR 流体により生体軟組織切断感覚を提示するハプティックインタフェースの開発/第29回日本ロボット学会学術講演会 (3L1-6)
- ・土橋宏規 (京都大学)  
ロボットセル生産のためのロボスタ把持戦略を用いた三次元形状物体を含む多形状物体の組立作業/第29回日本ロボット学会学術講演会 (3B2-3)
- ・中村圭佑 (ホンダ・リサーチ・インスティテュート・ジャパン (株))  
ロボットを対象にした複数同時発話にロボスタな音源定位の検討/第29回日本ロボット学会学術講演会 (3A3-1)
- ・山本 江 (東京工業大学)  
人の歩行軌跡データを用いた歩行者群モデルのパラメータ同定と交差流制御への応用/第29回日本ロボット学会学術講演会 (1N1-2)
- ・脇野修一 (岡山大学)  
空圧駆動柔軟デバイスを用いた可変剛性型大腸内視鏡の開発/ (第29回日本ロボット学会学術講演会 (3C2-6))

## 【ロボティクスシンポジウム研究奨励賞】

- ・鮎澤 光 (東京大学)  
勾配計算分解を用いた逆運動学計算の高速化および大自由度筋骨格モデルへの応用/第17回ロボティクスシンポジウム (2B4)
- ・小島基史 (広島大学)  
高速ビジョンを用いた実時間マイクロ PIV システム/第17回ロボティクスシンポジウム (2A2)
- ・松浦大輔 (東京工業大学)  
3次元磁気テザーと弾性ステージを有する非接触微粒子マニピュレーションシステムの開発/第17回ロボティクスシンポジウム (1A4)

## 【功労賞】

- ・佐藤知正 (東京大学)  
アジアロボット学会連合 ARSU の設立
- ・菅野重樹 (早稲田大学)  
Advanced Robotics を発展に導いたリーダーシップ

## 【ロボット活用社会貢献賞】

- ・油田信一 (芝浦工業大学), 田代泰典 (ニューテクノロジー振興財団), 大久保剛史 (つくば市経済産業振興課)

「つくばチャレンジ」の企画・実施によるロボット活用社会の実現に対する貢献

- ・建設無人化施工協会  
無人化施工技術の研究開発, 普及啓蒙, および災害現場での技術支援に対する貢献

## 2. 日本ロボット学会設立特別功労賞

2012年9月第30回学術講演会において、学会創立30周年を機会に、学会創設のご尽力に敬意を表し、設立準備委員会の委員および初代理事会理事全員(49名)に、日本ロボット学会設立特別功労賞の贈賞を行った。

阿部 稔	新井民夫	有本 卓	伊藤正美
稲葉清右衛門	井上博允	伊福部達	上田 実
梅谷陽二	尾崎省太郎	長田 正	柿倉正義
金山 裕	木下源一郎	木村文彦	佐藤孝平
白井良明	杉本 旭	高瀬国克	高野英彦
谷江和雄	辻 三郎	津村俊弘	戸谷隆美
長谷川幸男	花房秀郎	広瀬茂男	藤井澄二
牧野 洋	増淵正美	松島皓三	美多 勉
森下 巖	内田正彦	山下 忠	油田信一
古田勝久	吉本堅一	米本完二	渡辺 茂

※五十音順, ご遺族のお申し出により受賞をご辞退された方, 現在のご住所が不明で受賞のご連絡ができなかった方も含む。

## VI. 国際 (継続事業6)

## 1. 国際委員会活動

国際委員会は、日本のロボット研究の国際的優位性を基盤にして日本ロボット学会の国際的な存在感と地位を確立することを目的とし、このための戦略を策定し実施するための委員会として活動している。今年度もこれまでの活動を継続し、

- ・国内の外国人研究者向けの発表機会提供のサービス,
- ・国際会議を通しての学会の国際化に向けた取り組み,
- ・Asian Robotics Society Union (ARSU) をベースとしたアジア圏でのロボット系学会間の協調体制の活性化の三つを柱に活動を行った。

## 2. 第30回日本ロボット学会学術講演会における国際セッションの実施

9月17日～20日に札幌にて開催された第30回日本ロボット学会学術講演会において、例年どおりセッションの司会, 発表, 質疑応答のすべてが英語で行われる「国際セッション」を設けた。発表者には日本に滞在する留学生・研究者が多く含まれ、日本ロボット学会がこのような外国人に研究発表の機会を提供することは、外国人会員に対する有益なサービスであるとともに、日本ロボット学会を外国の人々に知ってもらうための貴重な機会である。また日本の若手研究者にとって、国際学会で発表する前の練習としても利用されており、こういった場を提供する意義は大きい。今年は、国際セッションの発表のみの予稿をまとめて製本した予稿集を発行した(昨年までは単に予稿を印刷しセッションごとにホッチキス止めしただけだった)。また、国際セッションのみの参加の費用については、昨年と同様に今年も無料とした。

今年度の第30回日本ロボット学会学術講演会においては、以下の四つのセッションがオーガナイズされ、計41件の論文発表があった。過去4年間の論文発表件数は、2009年21件、2010年32件、2011年41件、2012年41件と推移しており、全体的には増加傾向にある。

- ・Robotics Research by Foreign Researchers in Japan 15件
- ・Women in Robotics 7件
- ・Humanoids 7件
- ・Assistive Robotic 12件

会場にて参加者にアンケートを実施して、それをまとめた。その結果を示す。

- ・アンケート回答160名(9/18, 118名, 9/20, 42名)重複なし  
なお、初日に国際セッションの受付をした参加者の86%は、一般登録した参加者(すなわち有料参加)。
- ・国際セッションでのアンケート結果(回答数49件)内訳: 一般会員39%, 学生会員22%, 非会員39%  
✓一般登録していますか? はい67%, いいえ33%

- ✓ 国際セッションをどのように知りましたか？ ネット 30%, RSJ メーリングリスト 17%, 同僚 37%, その他 15%
- ✓ 国際セッションはどうでしたか？ 素晴らしい 38%, 良い 60%, まあまあ 0%, 残念 0%, 他 2%
- ✓ 国際セッションは必要ですか？ 必要 96%, 不要 4%
- ✓ 国際セッションの参加費の適正価格は？ 無料 50%, 1,000 円以下 15%, 3,000 円以下 27%, 5,000 円以下 4%, 一般登録と同じ 4%
- ✓ 次年度も国際セッションに参加する予定ですか？ はい 85%, いいえ 15%
- ✓ 次年度に国際セッションを企画する予定していますか？ はい 25%, いいえ 75%
- ✓ セッションオーガナイザと協力して国際セッションを良くしていきたいですか？ はい 54%, いいえ 46%
- ✓ RSJ のジャーナル Advanced Robotics を知っていますか？ はい 90%, いいえ 10%
- ✓ 来年も発表を予定していますか？ はい 70%, いいえ 30%

この結果、質の高い発表と質疑応答の実現によって、国際セッションの参加者には大変好評であったことが分かる。ただし、国際セッションは年々少しずつ規模が拡大しており運営上の負担も増えていることから、今後もこれまでも同様に講演料、参加費を無料としていくべきかを引き続き議論することとなった。紙媒体の配布は現地では有益であるものの費用もかさむため、こちらも検討対象とする。

### 3. 国際交流活動

第7回アジアロボット学会連合サミットミーティング (7th Asian Robotics Society Union Summit Meeting) を IROS2012 の会期中に開催した。これはアジア+オセアニアのロボット系学会の会長が年に一度集まって情報交換する場である。

日 時：2012年10月10日 12:30-14:00 (IROS2012 期間中)

場 所：IROS2012 会場内会議室

参 加 者：(メンバー学会のアルファベット順で表記)

[ARAA: Australian Robotics and Automation Association] (Australia and New Zealand)

・ Matthew Dunbabin (president of ARAA, CSIRO, Australia)

・ Bruce MacDonald (vice president of ARAA, University of Auckland, New Zealand)

[KROS: Korea Robotics Society] (Korea)

・ Dong-Soo Kwon (president of KROS, KAIST)

・ Sang-Rok Oh (former president of KROS, KIST)

[RSJ: Robotics Society of Japan] (Japan)

・ Sadao Kawamura (president of RSJ, Ritsumeikan University)

・ Hajime Asama (vice president of RSJ, The University of Tokyo)

・ Akihiro Matsumoto (director of international relations of RSJ, Toyo University)

・ Yasuhisa Hasegawa (director of international relations of RSJ, Tsukuba University)

[RSS: Robotics Society of Singapore] (Singapore)

・ Wang Han (Nanyang Technical University, Singapore)

[TRS: Thai Robotics Society] (Thailand):

・ Suparerk Premvuti (Kirinson Inc.) (Manukid Parnichkun: president of TRS, Asian Institute of Technology の代理)

主な議題:

- (1) 今後の ARSU サミット会議のホスト国の決め方について: RSJ 以外の学会もホスト学会となるよう立候補ベースで決定していくことを提案し、議論の結果、承認された。2013 年は IROS が東京にて開催されるため RSJ がホストする。2014 年はシカゴで行われる IROS 期間中に KROS がホストすることが決定された。
- (2) その他、教育を中心とした情報交換を推進すること、若手研究者のネットワークづくりに協力すること、ARSU の Web へコンテンツを提供すること、などの友好的な議論を行った。またサ

ミット会議のホスト学会の決め方を含んだ MoU を来年の ARSU サミット会議に提出することとなった。

- (3) 次回: IROS2013 期間中 (2013 年 11 月 3 日~7 日) に東京ビッグサイト内会議室にて。

### 4. 国際会議への対応

RSJ が共催となっている ROMAN と IROS に対し、以下のような活動を行った。

- (1) 21th IEEE International Symposium on Robot and Human Interactive Communication (RO-MAN 2012)  
期日: 2012 年 9 月 9 日~13 日, 会場: バリ, フランス  
9 月 10 日 19:00-22:00 にステアリング会議が開催され、会長の代わりに国際担当理事 1 名が出席し、今回の収支見込みや今後の開催計画や RSJ の来年の負担率などを確認した。
- (2) 2012 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems (IROS 2012)  
期日: 2012 年 10 月 7 日~11 日, 会場: ビラモウラ (ポルトガル)  
10 月 7 日 11:30-16:00 にステアリング会議が開催され、会長、副会長、国際担当理事 2 名が参加し、今回の収支見込みや今後の開催計画などを確認した。また会計報告や剰余金の振込みの手続きや時期に関するリクエストを出し承認された。IROS25 周年行事に対して、RSJ は記念ビデオや新ロゴを募集するなどの提案を出したものの、周年行事委員会との意思疎通がうまく行かず、結果として周年行事企画には RSJ は出資できなかった。

### 5. 情報発信, その他

- ・ 日本ロボット学会英文ホームページのコンテンツの更新。
- ・ ARSU (アジアロボット学会連合) ホームページのサーバの変更およびコンテンツの更新。

### 6. 国際会議共催/協賛

共催となっている ROMAN および IROS を含め、本会に関連する国際会議を共催 (3 件)、協賛 (9 件)、後援 (7 件) した。

### Ⅶ. 学術講演会 (その他事業 1)

#### 1. 学術講演会

##### (1) 第 30 回記念学術講演会

期 日: 2012 年 9 月 17 日(月)~20 日(木)

会 場: 札幌コンベンションセンター

組 織: 実行委員長: 田中孝之(北海道大学)

プログラム委員長: 鈴木昭二(はこだて未来大学)

発表件数: 853 件

セッション数 125

オーガナイズドセッション 27, 展開セッション 7, ストラ

テジックセッション 5, 国際セッション 4

特別講演 講師: 油田信一 特任教授(芝浦工業大学)

タイトル: 「ロボット学 100 年の計」

参加者数: 1,400 名

正会員: 677 名

学生会員: 487 名

協賛会員: 19 名

非会員: 71 名

学生非会員: 55 名

その他: 91 名

##### (2) ロボット技術展示 (科学技術研究費補助事業)

展示ロボット技術 20 点

来場者数 700 名

### 2. 学術講演会第 30 回記念特別行事

#### (1) 第 30 回記念式典

札幌コンベンションセンター 大ホール

・ 会長, 副会長挨拶

・ 来賓祝辞

・ 設立特別功労者表彰式

#### (2) 第 30 回記念レセプション

札幌コンベンションセンター 特別会議場



参加者 300名

Ⅷ. 講習会（その他事業）

1. ロボット工学セミナー

- (1) 第69回セミナー「ロボットに利用できるコンピュータビジョン技術」(遠隔セミナー実験を実施)  
期日：2012年5月22日(火) 東京大学  
講師：久野義徳(埼玉大), 堀田政二(東京農工大), 小室 孝(埼玉大), 青木義満(慶應義塾大)  
オーガナイザー：中村明生(東京電機大)  
参加者：103名(会員：21名, 学生：52名, 会員外：12名, 賛助招待：16名, 賛助優待：2名)
- (2) 第70回セミナー「ロボットの作り方2012」  
期日：2012年6月16日(土), 17日(日) 埼玉大学  
講師：竹内栄二郎(東北大), 程島竜一(埼玉大), 滝田謙介(日本工大)(+実習)  
オーガナイザー：滝田謙介(日本工大), 程島竜一(埼玉大)  
参加者：47名(会員：8名, 学生：31名, 会員外：5名, 賛助招待：3名, 賛助優待：0名)
- (3) 第71回セミナー「次世代アクチュエータの技術動向と筋骨格系への応用」(遠隔セミナー実験を実施)  
期日：2012年6月29日(金) 中央大学  
講師：樋口俊郎(東京大), 藤本康孝(横浜国大), 中村太郎(中央大), 藤本弘道(アクティブリンク)  
オーガナイザー：辻 俊明(埼玉大)  
参加者：47名(会員：14名, 学生：11名, 会員外：12名, 賛助招待：7名, 賛助優待：3名)
- (4) 第72回セミナー「アドバンスな環境認識センサとその処理方法」(遠隔セミナー実験を実施)  
期日：2012年9月25日(火) 東京大学  
講師：村上正肥(日本アビオニクス), 高畑智之(東京大), 高木 健(広島大), 日浦慎作(広島市大), 森 利宏(北陽電機), 吉田智章(千葉工業大), 大野和則(東北大)  
オーガナイザー：大槻真嗣(宇宙航空研究開発機構)  
参加者：50名(会員：13名, 学生：22名, 会員外：3名, 賛助招待：9名, 賛助優待：3名)
- (5) 第73回セミナー「生体計測とインタフェース技術」(遠隔セミナー実験を実施)  
期日：2012年10月9日(火) 東京大学  
講師：牛場潤一(慶應義塾大), 植野彰規(東京電機大), 加藤 龍(電気通信大), 藤原倫行(日立メディコ)  
オーガナイザー：小林英津子(東京大)  
参加者：44名(会員：18名, 学生：11名, 会員外：9名, 賛助招待：2名, 賛助優待：4名)
- (6) 第74回セミナー「サービスロボットの安全規格と開発プロセス」(遠隔無料モニタを実施)  
期日：2012年11月12日(月) 東京大学  
講師：木村哲也(長岡技術科学大), 藤川達夫(日本自動車研究所), 大西 舞(ヴィッツ), 中村雅一(総合警備保障), Wagle Santosh(北陽電機)  
オーガナイザー：中拓久哉(日立産機システム)  
参加者：41名(会員：12名, 学生：3名, 会員外：18名, 賛助招待：3名, 賛助優待：5名), 遠隔無料モニタ：20名
- (7) 第75回セミナー「歩行の生理学/力学/制御理論と歩行支援ロボティクス」(遠隔無料モニタを実施)  
期日：2012年12月7日(金) 中央大学  
講師：森 大志(山口大), 荻原直道(慶應義塾大), 杉原知道(大阪大), 上林清孝(筑波大), 河本浩明(筑波大)  
オーガナイザー：門根秀樹(筑波大)  
参加者：36名(会員：17名, 学生：7名, 会員外：7名, 賛助招待：2名, 賛助優待：3名), 遠隔無料モニタ：18名  
※のべ参加者368名(会員：103名, 学生：137名, 会員外：66名, 賛助招待：42名, 賛助優待：20名)

2. 共催事業

本会に関連する国内行事(講演会, シンポジウム, 講習会, 展示会, コンテスト等)の共催・協賛・後援について審査を行った。

共催 8件, 協賛 86件, 後援 10件, その他 4件 (2012年1月～12月31日審査分)

国内共催事業：

- (1) 第17回ロボティクスシンポジウム  
期 日：2012年3月14日(水)・15日(木)  
会 場：萩本陣 湯の丸(山口県萩市)  
実行委員長：稲垣詠一(山口東京理科大学)  
プログラム委員長：山本元司(九州大学)
- (2) ロボカップジャパンオープン2012大阪  
期 日：2012年5月3日(木)～5日(土)  
会 場：大阪工業大学 大宮キャンパス(大阪府)  
主 催：ロボカップ2012大阪開催委員会
- (3) フォーラム「カー・ロボティクス～モビリティの拡がりを支える先進技術～」  
期 日：2012年5月23日(金)  
会 場：パシフィコ横浜(神奈川県)  
企 画：カー・ロボティクス調査研究委員会(自動車技術会・日本ロボット学会)
- (4) 第24回知能ロボットコンテスト2012  
期 日：2012年6月16日(土)・17日(日)  
会 場：仙台市科学館(宮城県)  
主 催：ロボット競技会実行委員会, メカトロで遊ぶ会
- (5) 第12回レスキューロボットコンテスト  
期 日：2012年8月11日(土)・12日(日)  
会 場：神戸サンボーホール(兵庫県)  
主 催：レスキューロボットコンテスト実行委員会, 兵庫県, 神戸市, (株)神戸商工貿易センター, 読売新聞社
- (6) 第13回建設ロボットシンポジウム  
期 日：2012年9月11日(土)  
会 場：早稲田大学 国際会議場(東京都)  
主 催：公益社団法人土木学会, (社)日本建築学会, (財)先端建設技術センター, (社)日本建設機械化協会, (社)日本ロボット工業会
- (7) RSNP コンテスト  
期 日：2012年9月17日(月)～20日(木)  
会 場：札幌コンベンションセンター(北海道)  
主 催：ロボットサービスイニシアチブ(RSi)
- (8) つくばチャレンジ2012  
期 日：2012年11月10日(土)  
会 場：つくば市遊歩道(茨城)  
主 催：つくば市, つくばチャレンジ実行委員会

Ⅸ. その他

1. 会員状況

	平成24年12月31日 現在	平成23年12月31日 現在	増 減
名誉会員	11名	8名	3名増
正会員	2,896名	2,957名	61名減
学生会員	1,187名	1,123名	64名増
終身会員	45名	—	45名増
賛助会員	59団体(85口)	58団体(84口)	1団体(1口)増

2. 総会

- (1) 第2回定時総会  
会期：平成24年3月8日(木)  
会場：本郷瀬川ビル  
出席代議員数：57名(うち委任状提出：48名)(代議員総数：59名, 総会成立の定数30名以上, 議題の可決に必要な出席者数：代議員数40名)

議題：平成 23 年度の事業報告・決算報告，平成 24 年度の事業計画・予算計画，平成 24 年度役員の選任，名誉会員の推挙

上記について審議し，議決した。

(2) 臨時総会

会期：平成 24 年 9 月 18 日(火)

会場：札幌コンベンションセンター

出席代議員数：49 名（うち委任状提出：24 名）（代議員総数：59 名，総会成立の定数 30 名以上，議題の可決に必要な出席者数：代議員数 40 名）

議題：定款改訂，会費入会金細則改訂，役員の報酬および退職金に関する規程廃止，終身会員認定規程制定報告，会費の徴収および学会誌の配布に関する規程改訂報告，名誉会員選任規程改訂報告，終身会員のご案内

上記について審議し，議決した。

3. 委員会

下記の委員会を開催した。

委員会名	委員長
会誌編集委員会	久野義徳
欧文誌委員会	金宮好和
事業計画委員会	大矢晃久
国際委員会	松元明弘
研究協議会	浅間 一
出版事業委員会	大矢晃久
電子化運営委員会	小平紀生
アドバイザーボード	川村貞夫
将来ビジョン策定委員会（次世代構想分科会）	川村貞夫
事務局体制検討委員会	小平紀生
第 30 回学術講演会実行委員会	田中孝之
表彰委員会	浅間 一
第 26 回論文賞選考小委員会	小平紀生
第 27 回研究奨励賞選考小委員会	小平紀生
第 28 回研究奨励賞選考小委員会	小平紀生
第 17 回実用化技術賞選考小委員会	浅間 一
第 5 回功労賞選考小委員会	小平紀生
第 4 回ロボット活用社会貢献賞選考小委員会	浅間 一
第 2 回ロボティクスシンポジウム研究奨励賞選考小委員会	小平紀生
外部表彰選考小委員会	浅間 一
会員 5000 名拡大計画委員会	小平紀生
著作権管理委員会	浅間 一
学術講演会管理推進委員会	浅間 一
30 周年記念ロボット歴史アーカイブ小委員会	小平紀生

4. 役員の選出

平成 24 年度の理事・監事を選出した。

5. 運営報告会，理事会

- (1) 平成 24 年 9 月 18 日(火)に運営報告会を開催し，会務報告を行った。
- (2) 平成 24 年度中に 10 回理事会を開催し，会務の審理と処理を行った。

6. フェロー，名誉会員の選任

7 名のフェロー，3 名の名誉会員を選任した。

7. 学会の基盤強化

- (1) 産業貢献活動強化  
学術講演会において，産学連携セッションや各企業での事業活動紹介セッションなどを実施した。

8. 規約等の制定・整備

- ・表彰規定の改定  
授与の取消に関する規程を定めた。  
論文賞を分割し，「学会誌論文賞」「Advanced Robotics Best Paper Award」を制定した。

9. 電子化運営委員会

- (1) 学会 Web サイトのリニューアルを完了した。
- (2) 学術講演会予稿集のアーカイブ化を行い，学会 Web サイトで公開した。

10. 30 周年記念行事企画

- (1) 歴史のアーカイブ化・年表作成について作業を進めた。
- (2) 学術講演会にて記念式典・行事を行うとともに，49 名に設立特別功労賞の贈呈を行った。
- (3) 他学会との連係行事を行った。
- (4) 将来ビジョン策定委員会傘下に，40 歳未満の学会員による次世代構想分科会を設置した。学術講演会セッションでの同分科会の次世代構想の提言を受けて，今後の対応について検討を開始した。

11. 終身会員制度の制定

常勤職を持たない 65 歳以上の正会員に対して，本人の申請に基づき，経済的な負担をかけない終身会員へ移行する制度を制定した。

12. 事務局

- (1) 一般社団法人における定款・規程類の見直しを行い，改訂した。
- (2) 中長期的な視点に立って事務局体制について検討し，事務局と各委員会の裁量範囲の拡大について整備を進めた。引き続き，事務局体制検討委員会にて検討していく。

X. 事業報告に係る附属明細書

事業報告の内容を補足する重要な事項はありません。



## 【第2号議案】

## 平成24年度決算業報告

貸借対照表  
平成24年12月31日現在

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	196,578,668	218,771,228	△ 22,192,560
現 金	2,382,899	3,908,971	△ 1,526,072
普通預金	49,051,706	70,901,222	△ 21,849,516
振替口座	10,797,809	9,656,799	1,141,010
通常貯金	1,001,922	1,002,680	△ 758
定期預金	133,344,332	133,301,556	42,776
未収会費	1,810,000	2,936,000	△ 1,126,000
未収金	4,141,536	3,648,890	492,646
前払金	498,683	607,523	△ 108,840
立替金	10,979	0	10,979
仮払金	2,654,912	3,597,895	△ 942,983
流動資産合計	205,694,778	229,561,536	△ 23,866,758
2. 固定資産			
(1)特定資産			
退職給付引当資産	7,228,422	6,499,510	728,912
定期預金	21,000,000	21,000,000	0
特定財産合計	28,228,422	27,499,510	728,912
(2)その他固定資産			
電話加入権	153,100	153,100	0
敷 金	63,000	63,000	0
保証金	2,500,000	2,500,000	0
その他固定資産合計	2,716,100	2,716,100	0
固定資産合計	30,944,522	30,215,610	728,912
資産合計	236,639,300	259,777,146	△ 23,137,846
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	1,952,305	3,589,789	△ 1,637,484
前受会費	23,503,000	24,034,000	△ 531,000
預り金	429,438	547,650	△ 118,212
仮受金	2,216,912	3,632,895	△ 1,415,983
未払法人税等	70,000	70,000	0
流動負債合計	28,171,655	31,874,334	△ 3,702,679
2. 固定負債			
退職給付引当金	7,228,422	6,499,510	728,912
固定負債合計	7,228,422	6,499,510	728,912
負債合計	35,400,077	38,373,844	△ 2,973,767
III 正味財産の部			
一般正味財産	201,239,223	221,403,302	△ 20,164,079
(うち特定資産への充当額)	( 21,000,000)	( 21,000,000)	( 0)
正味財産合計	201,239,223	221,403,302	△ 20,164,079
負債及び正味財産合計	236,639,300	259,777,146	△ 23,137,846

注：前年度の事業年度は、平成23年3月1日から平成23年12月31日までである。

貸借対照表内訳表  
平成24年12月31日現在

(単位：円)

科 目	実施事業等会計	その他会計	法人会計	内部取引消去	合 計
I 資産の部					
1. 流動資産					
現金預金	2,154,912	0	194,423,756	0	196,578,668
未収会費			1,810,000		1,810,000
未収金			4,141,536		4,141,536
前払金			498,683		498,683
立替金			10,979		10,979
仮払金			2,654,912	2,154,912	500,000
流動資産合計	2,154,912	0	203,539,866	2,154,912	203,539,866
2. 固定資産					
(1)特定資産					
退職給付引当資産	5,238,321	180,918	1,809,183		7,228,422
定期預金			21,000,000		21,000,000
特定資産合計	5,238,321	180,918	22,809,183	0	28,228,422
(2)その他固定資産					
電話加入権	76,264	25,205	51,631		153,100
敷 金			63,000		63,000
保証金			2,500,000		2,500,000
その他固定資産合計	76,264	25,205	2,614,631	0	2,716,100
固定資産合計	5,314,585	206,123	25,423,814	0	30,944,522
資産合計	7,469,497	206,123	228,963,680	2,154,912	234,484,388
II 負債の部					
1. 流動負債					
未払金			1,952,305		1,952,305
前受会費			23,503,000		23,503,000
預り金			429,438		429,438
仮受金	2,154,912		62,000	2,154,912	62,000
未払法人税等			70,000		70,000
流動負債合計	2,154,912	0	26,016,743	2,154,912	26,016,743
2. 固定負債					
退職給付引当金	5,238,321	180,918	1,809,183		7,228,422
固定負債合計	5,238,321	180,918	1,809,183	0	7,228,422
負債合計	7,393,233	180,918	27,825,926	2,154,912	33,245,165
会計区分間振替勘定					
会計区分間振替勘定	76,264	25,205	△ 101,469		0
会計区分間振替勘定合計	76,264	25,205	△ 101,469		0
III 正味財産の部					
一般正味財産	0	0	201,239,223	0	201,239,223
正味財産合計	0	0	201,239,223	0	201,239,223
負債及び正味財産合計	7,469,497	206,123	228,963,680	2,154,912	234,484,388

注：前年度の事業年度は、平成23年3月1日から平成23年12月31日までである。

## 正味財産増減計算書

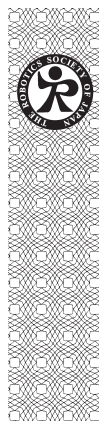
平成 24 年 1 月 1 日から平成 24 年 12 月 31 日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 特定資産運用益	6,055	13,996	△ 7,941
特定資産受取利息	6,055	13,996	△ 7,941
② 受取入金	578,000	453,000	125,000
正会員受取入金	95,000	90,000	5,000
学生会員受取入金	483,000	363,000	120,000
③ 受取会費	42,378,000	13,110,000	29,268,000
正会員受取会費	30,210,000	9,150,000	21,060,000
学生会員受取会費	5,288,000	3,400,000	1,888,000
賛助会員受取会費	6,880,000	560,000	6,320,000
④ 事業収益	46,694,574	45,881,723	812,851
申込金事業収益	3,720,000	3,380,000	340,000
参加費事業収益	11,968,000	12,160,000	△ 192,000
懇親会参加費事業収益	2,580,000	2,723,000	△ 143,000
展示料事業収益	3,118,571	3,890,000	△ 771,429
講演概要集広告料事業収益	260,000	250,000	10,000
セミナー参加費事業収益	2,947,000	2,804,700	142,300
会誌掲載料事業収益	14,080,350	12,829,950	1,250,400
会誌広告料事業収益	4,836,486	4,631,487	204,999
会誌頒布事業収益	1,793,430	1,896,090	△ 102,660
編集料事業収益	1,390,737	1,316,496	74,241
⑤ 受取補助金等	1,400,000	0	1,400,000
受取国庫補助金	1,400,000	0	1,400,000
⑥ 雑収益	3,456,415	8,977,716	△ 5,521,301
受取利息	53,408	112,694	△ 59,286
雑収益	3,403,007	8,865,022	△ 5,462,015
経常収益計	94,513,044	68,436,435	26,076,609
(2) 経常費用			
① 事業費	81,378,523	62,052,187	19,326,336
給料手当	8,642,948	7,616,976	1,025,972
臨時雇賃金	5,538,097	3,728,744	1,809,353
退職給付費用	544,606	524,299	20,307
福利厚生費	1,107,645	822,003	285,642
旅費交通費	3,271,281	2,450,113	821,168
通信運搬費	4,590,015	4,029,426	560,589
消耗什器備品費	329,400	0	329,400
消耗品費	1,417,327	2,594,532	△ 1,177,205
印刷製本費	19,912,173	17,148,809	2,763,364
賃借料	7,989,519	2,098,290	5,891,229
諸謝金	2,039,634	1,332,498	707,136
租税公課	1,052,914	41,145	1,011,769
支払負担金	8,087,507	6,348,649	1,738,858
委託費	13,935,829	12,337,837	1,597,992
雑費	2,919,628	978,866	1,940,762
② 管理費	33,228,600	26,772,836	6,455,764
給料手当	7,668,143	6,847,690	820,453
臨時雇賃金	3,520,817	2,735,030	785,787
退職給付費用	184,306	174,657	9,649
福利厚生費	395,576	453,709	△ 58,133
会議費	418,940	414,055	4,885
旅費交通費	1,132,740	560,634	572,106
通信運搬費	1,392,791	794,729	598,062
消耗什器備品費	0	471,544	△ 471,544
消耗品費	654,690	929,552	△ 274,862
印刷製本費	727,055	725,468	1,587
光熱水料費	323,647	279,354	44,293

賃借料	7,234,561	5,706,678	1,527,883
保険料	6,000	6,000	0
支払手数料	505,943	404,724	101,219
諸会費	334,800	315,200	19,600
諸謝金	1,655,430	1,356,175	299,255
租税公課	63,686	30,255	33,431
委託費	4,984,284	2,331,443	2,652,841
雑費	2,025,191	2,235,939	△ 210,748
経常費用計	114,607,123	88,825,023	25,782,100
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 20,094,079	△ 20,388,588	294,509
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 20,094,079	△ 20,388,588	294,509
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	△ 20,094,079	△ 20,388,588	294,509
法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000	0
当期一般正味財産増減額	△ 20,164,079	△ 20,458,588	294,509
一般正味財産期首残高	221,403,302	241,861,890	△ 20,458,588
一般正味財産期末残高	201,239,223	221,403,302	△ 20,164,079
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	201,239,223	221,403,302	△ 20,164,079

注：前年度の事業年度は、平成 23 年 3 月 1 日から平成 23 年 12 月 31 日までである。





正味財産増減計算書内訳表

平成24年1月1日から平成24年12月31日まで

No. 1

科 目	実 施 事 業 等 会 計							小計 (A)
	継1 シンポジウム	継2 学会誌	継3 欧文誌	継4 調査・研究	継5 表彰	継6 国際	共通	
I 一般正味財産増減の部	0	0	0	0	0	0	0	0
1. 経常増減の部	0	0	0	0	0	0	0	0
(1) 経常収益	0	0	0	0	0	0	0	0
特定資産運用益	0	0	0	0	0	0	0	0
特定資産受取利息	0	0	0	0	0	0	0	0
受 取 入 会 金	0	0	0	0	0	0	0	0
正会員入会金	0	0	0	0	0	0	0	0
学生会員入会金	0	0	0	0	0	0	0	0
受 取 会 費	0	0	0	0	0	0	0	0
正会員会費	0	0	0	0	0	0	0	0
学生会員会費	0	0	0	0	0	0	0	0
賛助会員会費	0	0	0	0	0	0	0	0
事 業 収 益	0	20,710,266	1,390,737	0	0	0	0	22,101,003
申 込 金	0	0	0	0	0	0	0	0
参 加 費	0	0	0	0	0	0	0	0
懇親会参加費	0	0	0	0	0	0	0	0
展 示 料	0	0	0	0	0	0	0	0
講演概要集広告料	0	0	0	0	0	0	0	0
セミナー参加費	0	0	0	0	0	0	0	0
会誌掲載料	0	14,080,350	0	0	0	0	0	14,080,350
会誌広告料	0	4,836,486	0	0	0	0	0	4,836,486
会誌頒布収入	0	1,793,430	0	0	0	0	0	1,793,430
編 集 料	0	0	1,390,737	0	0	0	0	1,390,737
受取補助金等	0	0	0	0	0	0	0	0
受取国庫補助金	0	0	0	0	0	0	0	0
雑 収 益	0	0	0	0	0	0	0	0
受 取 利 息	0	0	0	0	0	0	0	0
雑 収 益	0	0	0	0	0	0	0	0
経常収益計	0	20,710,266	1,390,737	0	0	0	0	22,101,003
(2) 経常費用	0	0	0	0	0	0	0	0
事 業 費	1,348,288	30,681,448	6,781,095	2,223,245	10,329,628	2,860,461	0	54,224,165
給 料 手 当	0	5,464,700	0	0	2,591,775	0	0	8,056,475
臨時雇賃金	77,000	39,000	0	38,000	3,969,057	16,000	0	41,390,057
退職給付費用	0	378,731	0	0	147,445	0	0	526,176
福利厚生費	0	751,614	0	0	316,473	0	0	1,068,087
旅費交通費	115,120	269,920	72,140	922,910	270,860	613,901	0	2,264,851
通信運搬費	0	3,735,214	43,864	24,525	168,074	9,030	0	3,980,707
消耗什器備品費	0	0	0	0	0	0	0	0
消耗品費	32,234	9,783	12,268	85,203	5,980	0	0	145,468
印刷製本費	2,000	16,044,979	0	100,000	0	515,025	0	16,662,004
賃 借 料	637,500	0	0	86,590	0	0	0	724,090
諸 謝 金	376,434	0	0	697,674	0	0	0	1,074,108
租 税 公 課	0	602,079	8,000	0	0	0	0	610,079
支払負担金	0	0	2,650,546	51,128	0	0	0	2,701,674
委 託 費	0	3,371,778	3,956,477	161,988	607,477	1,625,795	0	9,723,515
雑 費	108,000	13,650	37,800	55,227	2,252,487	80,710	0	2,547,874
管 理 費	0	0	0	0	0	0	0	0
給 料 手 当	0	0	0	0	0	0	0	0
臨時雇賃金	0	0	0	0	0	0	0	0
退職給付費用	0	0	0	0	0	0	0	0
福利厚生費	0	0	0	0	0	0	0	0
会 議 費	0	0	0	0	0	0	0	0
旅費交通費	0	0	0	0	0	0	0	0
通信運搬費	0	0	0	0	0	0	0	0
消耗什器備品費	0	0	0	0	0	0	0	0
消耗品費	0	0	0	0	0	0	0	0

印刷製本費	0	0	0	0	0	0	0	0
光熱水料費	0	0	0	0	0	0	0	0
賃 借 料	0	0	0	0	0	0	0	0
保 険 料	0	0	0	0	0	0	0	0
支払手数料	0	0	0	0	0	0	0	0
諸 会 費	0	0	0	0	0	0	0	0
諸 謝 金	0	0	0	0	0	0	0	0
租 税 公 課	0	0	0	0	0	0	0	0
委 託 費	0	0	0	0	0	0	0	0
雑 費	0	0	0	0	0	0	0	0
経常費用計	1,348,288	30,681,448	6,781,095	2,223,245	10,329,628	2,860,461	0	54,224,165
前期繰越増減額	-1,348,288	-9,971,182	-5,390,358	-2,223,245	-10,329,628	-2,860,461	0	-32,123,162
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	-1,348,288	-9,971,182	-5,390,358	-2,223,245	-10,329,628	-2,860,461	0	-32,123,162
2. 経常外増減の部	0	0	0	0	0	0	0	0
(1) 経常外収益	0	0	0	0	0	0	0	0
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0	0	0	0	0	0
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
前期繰越増減額	-1,348,288	-9,971,182	-5,390,358	-2,223,245	-10,329,628	-2,860,461	0	-32,123,162
他会計振替額	0	0	0	0	0	0	0	0
繰入金等集積	0	0	0	0	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	-1,348,288	-9,971,182	-5,390,358	-2,223,245	-10,329,628	-2,860,461	0	-32,123,162
一般正味財産期首残高	-201,297	-7,390,898	-4,218,180	-1,531,395	-6,198,313	-1,657,170	0	-21,197,253
一般正味財産期末残高	-1,549,585	-17,362,080	-9,608,538	-3,754,640	-16,527,941	-4,517,631	0	-53,320,415
II 指定正味財産増減の部	0	0	0	0	0	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0
III 正味財産期末残高	-1,549,585	-17,362,080	-9,608,538	-3,754,640	-16,527,941	-4,517,631	0	-53,320,415

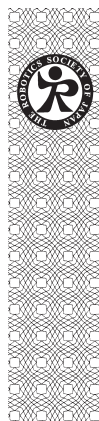
## 正味財産増減計算書内訳表

平成 24 年 1 月 1 日から平成 24 年 12 月 31 日まで

No. 2

科 目	その他会計				法人 会計 (C)	内部取 引消去	合計 (A) + (B) + (C)
	他 1 学術講 演会	他 2 講習会	共通	小計 (B)			
I 一般正味財産増減の部	0	0	0	0	0	0	0
1. 経常増減の部	0	0	0	0	0	0	0
(1) 経常収益	0	0	0	0	0	0	0
特定資産運用益	0	0	0	0	6,055	0	6,055
特定資産受取利息	0	0	0	0	6,055	0	6,055
受取入会金	0	0	0	0	578,000	0	578,000
正会員入会金	0	0	0	0	95,000	0	95,000
学生会員入会金	0	0	0	0	483,000	0	483,000
受取会費	0	0	0	0	42,378,000	0	42,378,000
正会員会費	0	0	0	0	30,210,000	0	30,210,000
学生会員会費	0	0	0	0	5,288,000	0	5,288,000
賛助会員会費	0	0	0	0	6,880,000	0	6,880,000
事業収益	21,646,571	2,947,000	0	24,593,571	0	0	46,694,574
申込金	3,720,000	0	0	3,720,000	0	0	3,720,000
参加費	11,968,000	0	0	11,968,000	0	0	11,968,000
懇親会参加費	2,580,000	0	0	2,580,000	0	0	2,580,000
展示料	3,118,571	0	0	3,118,571	0	0	3,118,571
講演概要集広告料	260,000	0	0	260,000	0	0	260,000
セミナー参加費	0	2,947,000	0	2,947,000	0	0	2,947,000
会誌掲載料	0	0	0	0	0	0	14,080,350
会誌広告料	0	0	0	0	0	0	4,836,486
会誌頒布収入	0	0	0	0	0	0	1,793,430
編集料	0	0	0	0	0	0	1,390,737
受取補助金等	1,400,000	0	0	1,400,000	0	0	1,400,000
受取国庫補助金	1,400,000	0	0	1,400,000	0	0	1,400,000
雑収益	0	0	0	0	3,456,415	0	3,456,415
受取利息	0	0	0	0	53,408	0	53,408
雑収益	0	0	0	0	3,403,007	0	3,403,007
経常収益計	23,046,571	2,947,000	0	25,993,571	46,418,470	0	94,513,044
(2) 経常費用	0	0	0	0	0	0	0
事業費	23,573,318	3,581,040	0	27,154,358	0	0	81,378,523
給料手当	586,473	0	0	586,473	0	0	8,642,948
臨時雇賃金	1,256,500	142,540	0	1,399,040	0	0	5,538,097
退職給付費用	18,430	0	0	18,430	0	0	544,606
福利厚生費	39,558	0	0	39,558	0	0	1,107,645
旅費交通費	752,310	254,120	0	1,006,430	0	0	3,271,281
通信運搬費	462,974	146,334	0	609,308	0	0	4,590,015
消耗什器備品費	0	329,400	0	329,400	0	0	329,400
消耗品費	84,504	1,187,355	0	1,271,859	0	0	1,417,327
印刷製本費	3,206,910	43,259	0	3,250,169	0	0	19,912,173
賃借料	7,064,369	201,060	0	7,265,429	0	0	7,989,519
諸謝金	137,489	828,037	0	965,526	0	0	2,039,634
租税公課	344,607	98,228	0	442,835	0	0	1,052,914
支払負担金	5,364,093	21,740	0	5,385,833	0	0	8,087,507
委託費	3,888,337	323,977	0	4,212,314	0	0	13,935,829
雑費	366,764	4,990	0	371,754	0	0	2,919,628
管理費	0	0	0	0	33,228,600	0	33,228,600
給料手当	0	0	0	0	7,668,143	0	7,668,143
臨時雇賃金	0	0	0	0	3,520,817	0	3,520,817
退職給付費用	0	0	0	0	184,306	0	184,306
福利厚生費	0	0	0	0	395,576	0	395,576
会議費	0	0	0	0	418,940	0	418,940
旅費交通費	0	0	0	0	1,132,740	0	1,132,740
通信運搬費	0	0	0	0	1,392,791	0	1,392,791
消耗什器備品費	0	0	0	0	0	0	0

消耗品費	0	0	0	0	654,690	0	654,690
印刷製本費	0	0	0	0	727,055	0	727,055
光熱水料費	0	0	0	0	323,647	0	323,647
賃借料	0	0	0	0	7,234,561	0	7,234,561
保険料	0	0	0	0	6,000	0	6,000
支払手数料	0	0	0	0	505,943	0	505,943
諸会費	0	0	0	0	334,800	0	334,800
諸謝金	0	0	0	0	1,655,430	0	1,655,430
租税公課	0	0	0	0	63,686	0	63,686
委託費	0	0	0	0	4,984,284	0	4,984,284
雑費	0	0	0	0	2,025,191	0	2,025,191
経常費用計	23,573,318	3,581,040	0	27,154,358	33,228,600	0	114,607,123
評価損益等調整前 当期経常増減額	-526,747	-634,040	0	-1,160,787	13,189,870	0	-20,094,079
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	-526,747	-634,040	0	-1,160,787	13,189,870	0	-20,094,079
2. 経常外増減の部	0	0	0	0	0	0	0
(1) 経常外収益	0	0	0	0	0	0	0
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0	0	0	0	0
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0
税引前当期増減額	-526,747	-634,040	0	-1,160,787	13,189,870	0	-20,094,079
他会計振替額	0	0	0	0	0	0	0
法人税住民税 及び事業税	0	0	0	0	70,000	0	70,000
当期一般正味財産増減額	-526,747	-634,040	0	-1,160,787	13,119,870	0	-20,164,079
一般正味財産期首残高	3,933,356	1,093,433	0	5,026,789	237,573,766	0	221,403,302
一般正味財産期末残高	3,406,609	459,393	0	3,866,002	250,693,636	0	201,239,223
II 指定正味財産増減の部	0	0	0	0	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0
III 正味財産期末残高	3,406,609	459,393	0	3,866,002	250,693,636	0	201,239,223



## 財務諸表に対する注記

## 1. 重要な会計方針

## (1) 引当金の計上基準

退職給付引当金は、期末退職給与の要支給額に相当する金額を計上している。

## (2) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込み方式によっている。

## 2. 特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特 定 資 産				
退職給付引当資産	6,499,510	728,912		7,228,422
定 期 預 金	21,000,000	0		21,000,000
合 計	27,499,510	728,912	0	28,228,422

## 3. 特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財 産からの充当額)	(うち一般正味財 産からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
特 定 資 産				
退職給付引当資産	7,228,422	—	( 0)	( 7,228,422)
定 期 預 金	21,000,000	( 0)	( 21,000,000)	—
合 計	28,228,422	( 0)	( 21,000,000)	( 7,228,422)

## 4. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位：円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上 の記載区分
補助金						
国庫補助金	文部科学省	0	1,400,000	1,400,000	0	
合 計		0	1,400,000	1,400,000	0	

## 附 属 明 細 書

## 1. 特定資産の明細

特定資産の明細については、「財務諸表に対する注記」の「2. 特定資産の増減額及びその残高」に記載のとおりである。

## 2. 引当金の明細

(単位：円)

科 目	期首残高	当期 増加額	当期減少額		期末残高
			使用目的	その他	
退職給付引当金	6,499,510	728,912	—	—	7,228,422

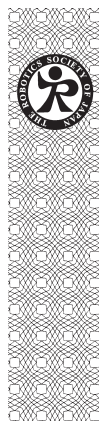
## お 知 ら せ

## 財 産 目 録

平成 24 年 12 月 31 日現在

(単位：円)

科 目		金 額	
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金			
現金	手許有高	2,382,899	
普通預金	三菱東京 UFJ 銀行本店	5,227,283	
〃	みずほ銀行本郷支店	12,213,252	
〃	みずほ銀行本郷支店	1,439,077	
〃	みずほ銀行本郷支店	10,453,855	
〃	りそな銀行本郷支店	1,869,158	
〃	三菱 UFJ 信託銀行本店	6,604,960	
〃	三井住友銀行小石川支店	11,244,121	
定期預金	三井住友銀行小石川支店	55,226,848	
定期預金	三菱 UFJ 信託銀行本店	60,067,269	
定期預金	みずほ銀行本郷支店	18,050,215	
振替口座	ゆうちょ銀行	10,797,809	
通常貯金	ゆうちょ銀行	1,001,922	
未収会費	平成 24 年度会費 256 名	1,810,000	
未収金	学会誌投稿料・広告料他	4,141,536	
前払金	平成 25 年 1 月分事務所家賃他	498,683	
立替金	ロボティクスシンポジア WEB サーバ費用	10,979	
仮払金	第 18 回ロボティクスシンポジア	500,000	
流動資産合計			203,539,866
2 固定資産			
(1) 特定資産			
退職給付引当資産 (普通預金) 三菱東京 UFJ 銀行春日町支店		7,228,422	
定期預金 三菱東京 UFJ 銀行本店		21,000,000	
特定資産合計		28,228,422	
(2) その他固定資産			
電話加入権 2 本		153,100	
敷金 賃貸借契約敷金		63,000	
保証金 賃貸借契約保証金		2,500,000	
その他固定資産合計		2,716,100	
固定資産合計			30,944,522
資産合計			234,484,388
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金			
人材派遣費 12 月分		519,519	
12 月分給与 (細田分)		500,000	
封入・郵送費 (日本ロボット学会誌 30-10)		341,830	
交通費 (理事会他)		257,940	
公認会計士・税理士顧問料 11, 12 月分		142,800	
コピー機使用料他		190,216	
前受会費 会費前受分		23,503,000	
預り金 源泉所得税		81,426	
〃 住民税		12,800	
〃 社会保険料		335,212	
仮受金 会費誤入金分		62,000	
未払法人税等 平成 24 年分法人住民税		70,000	
流動負債合計			26,016,743
2 固定負債			
退職給付引当金 退職給付分		7,228,422	
固定負債合計			7,228,422
負債合計			33,245,165
正味財産			201,239,223



## 監 査 報 告

私たち監事は、平成24年1月1日から平成24年12月31日までの第二期事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果につき以下のとおり報告いたします。

## 1. 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る財務諸表等（貸借対照表（内訳表を含む）、正味財産増減計算書（内訳表を含む）、財務諸表に対する注記）及びその附属明細書について検討いたしました。

## 2. 監査の結果

## (1) 事業報告等の監査結果

一 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。

二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。

## (2) 財務諸表等及びその附属明細書の監査結果

財務諸表等及びその附属明細書は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

平成25年2月20日  
一般社団法人日本ロボット学会

監 事 佐久間一郎 印 ㊞  
監 事 榊原 伸介 印 ㊞

## 公益目的支出計画実施報告書に関する監査報告

私たち監事は、平成24年1月1日から平成24年12月31日までの第二期事業年度の公益目的支出計画実施報告書について監査いたしました。その方法及び結果につき以下のとおり報告いたします。

## 1. 監査の方法及びその内容

会計帳簿又はこれに関する資料、公益目的支出計画に関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る公益目的支出計画実施報告書について検討いたしました。

## 2. 監査の結果

公益目的支出計画実施報告書は、法令等に従い、適切に作成されているものと認めます。

平成25年2月20日  
一般社団法人日本ロボット学会

監 事 佐久間 一 郎 ㊞  
監 事 榊 原 伸 介 ㊞

## 【報告資料1】

## 平成25年度 事業計画

（自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日）

## I. シンポジウム（継続事業1）

## 1. ロボット教育セミナー（仮）

第1回ロボット教育セミナー「子供向けからくり教室（仮）」

期日：2013年8月（予定）

オーガナイザ：中本秀一（株）東芝

## II. 学会誌（継続事業2）

第31巻1号より10号を、1月、3月、4月、5月、6月、7月、9月、10月、11月、12月に刊行し、会員に配布する。各号の特集テーマは以下のものを予定している。

第31巻1号 次世代ロボットのための知能化技術

第31巻2号 ロボット教育論文特集号

第31巻3号 ロボティクス研究のためのソフトウェアツールII

第31巻4号 マニピュレーション研究の最前線（仮）

第31巻5号 材料の知（仮）

第31巻6号 次世代アクチュエータのロボティクスへの応用（仮）

第31巻7号 第30回日本ロボット学会学術講演会論文特集号I

第31巻8号 第30回日本ロボット学会学術講演会論文特集号II

第31巻9号 日本SF作家クラブとの共同企画（仮）

第31巻10号 未定

前年度に引き続き、魅力的な特集号の企画などについて取り組む。日本SF作家クラブが設立50周年ということで、ロボットとSFの関連についての特集号も検討している。また、学術講演会論文特集号に加え、特定テーマで企画した論文特集号を発行する。昨年（第30巻3号）の「つくばチャレンジ論文特集号」に続き、第31巻2号で「ロボット教育論文特集号」の発行を予定している。一般記事に関しては、会議報告、コラム記事やロボット分野の著名な方とのインタビュー記事などの掲載を継続して行う。

論文については、適切な論文が迅速に採録できるように、査読基準および査読方法について検討を進める。また、欧文誌が査読システムとしてScholarOne Manuscriptを使用することになるが、学会誌も同じシステムを使用すべきか検討を行う。

広告に関しては、収入目標を550万円と設定し、特集に関連した企業広告の獲得など目標達成に向けた具体的取り組みを行う。

中長期的ビジョンとしては、和文誌・欧文誌という単純な括りで考えるのではなく、学会の発展を優先して改善策を検討して行く。例えば、学会誌では、教育論文、企業論文、解説論文などで新しい領域を開拓し、ロボット研究のすそ野を広げて行く。また、和文誌の解説を英訳して欧文誌に掲載する、あるいは欧文誌の優れた論文の和訳を和文誌に掲載するなど、和文誌と欧文誌の密な連携を模索する。日本語によるより深い議論が必要な領域では、将来的にも学会誌の存在価値は高いと考えられる。

## III. 欧文誌（継続事業3）

## 1. 欧文誌（Advanced Robotics）の発行計画

下記のとおり、2013年度においてはVol. 27を年18巻発行することを計画している。

27/1	2013	Jan	Cutting Edge of Robotics in Japan 2013(1)
27/2		Jan	Regular Issue
27/3		Jan	Regular Issue
27/4		Feb	Regular Issue
27/5		Mar	Safety, Security and Rescue Robots
27/6		Mar	Regular Issue
27/7		Apr	Cutting Edge of Robotics in Japan 2013(2)
27/8		May	Regular Issue
27/9		May	Aerial Robotics
27/10		June	Regular Issue
27/11		June	Regular Issue
27/12		July	Regular Issue
27/13		Aug	RAAD2012

27/14	Sept	Regular Issue
27/15	Sept	Regular Issue
27/16	Oct	Regular Issue
27/17	Nov	Regular Issue
27/18	Nov	Regular Issue

## 2. 編集体制

2013年度は、新井史人編集長の下、シニアエディター3名を含む20名の欧文誌委員会メンバーを中心に、査読小委員会、国際編集委員、アドバイザー委員会のメンバーの協力を得ながら、欧文誌 Advanced Robotics の国際的認知度向上、さらに日本ロボット学会と日本のロボット分野全体の国際的地位向上に貢献していく。

## 3. 欧文誌の内容向上と購読数増に向けて

2011年度からの年間18号の運用により、一般論文の査読・出版サイクルに大幅な改善が図られている。今後は一般論文の投稿数を見ながら積極的かつ戦略的な特集号企画を行い、国際的な認知度のさらなる向上、掲載される論文の質の向上を図るとともに、Citation Indexの評価(インパクトファクター)の向上を目指す。さらに、国際貢献の意味も含め、国内外からの投稿数をさらに増大させていくための施策として、投稿料無料を堅持する。

## 4. 国際化に向けての活動

主要な国際会議 IROS2013 にあわせて国際編集委員会を開催し、海外委員による特集号企画などを通して、国際的認知度を高める努力を行っていく。また国際貢献のために、ロボット学会の外国人会員の増加、日本の優れた研究の世界への発信などを引き続き積極的に進めていく。また、国際委員会の活動に協力し、アジアロボット学会連合(ARSU: Asian Robotics Society Union)の参加学会との協力体制強化、パンフレットの国際会議場などでの配布、ウェブの英語コンテンツ充実、等を実施する。

## IV. 調査・研究(継続事業4)

## 1. 調査・研究専門委員会活動

以下の調査研究委員会、研究専門委員会による活動を行う。

## a. 研究専門委員会

委員会名	委員長	発 足	継 続	種別
安心ロボティクス研究専門委員会	新井健生	2012年4月	—	I種
データ工学ロボティクス研究専門委員会	大野和則	2012年4月	—	I種
ネットワークを利用したロボットサービス研究専門委員会	成田雅彦	2010年3月	2012年3月	I種
生活機能構成学に関する研究専門委員会	西田佳史	2009年10月	2011年4月	I種
RT機能安全研究専門委員会	山田陽滋	2009年4月	2011年4月	I種
関西ロボット系若手研究者ネットワーク研究専門委員会	池田篤俊	2009年4月	2011年4月	I種
ヒューロビント研究専門委員会	松下光次郎	2009年4月	2011年4月	I種
ロボット教育研究専門委員会	琴坂信哉	2008年8月	2012年8月	II種
ヒューマンセントリックロボティクス研究専門委員会	山本元司	2008年4月	2012年4月	I種
北海道ロボット技術研究専門委員会	小林幸徳	2008年4月	2012年4月	I種
カー・ロボティクス研究専門委員会	内山 勝	2008年4月	2012年4月	I種
ロボティック・サイエンス研究専門委員会	國吉康夫	2008年4月	2012年4月	I種
手の巧みさ研究専門委員会	星野 聖	2007年1月	2013年1月	II種

ロボティクスにおける空間の知能化及び構造化に関する研究専門委員会	新妻実保子	2007年1月	2013年1月	II種
----------------------------------	-------	---------	---------	-----

## b. 調査研究委員会

委員会名	委員長	発 足
東日本大震災関連調査研究委員会	川村貞夫	2011年11月
広域災害対応に関する技術基盤調査研究委員会	浅間 一	2013年1月

## V. 表彰(継続事業5)

## 1. 表彰

第31回学術講演会において学会誌論文賞、Advanced Robotics Best Paper Award、実用化技術賞、研究奨励賞、ロボティクスシンポジウム研究奨励賞、功労賞およびロボット活用社会貢献賞の授賞を行う。また、本年度以降も財団法人ファナックFAロボット財団の論文賞への候補論文の推薦、財団法人東レ科学振興会の東レ科学技術賞および東レ科学技術研究助成の候補者推薦を行う。

## VI. 国際(継続事業6)

## 1. 学術講演会における国際セッションの継続実施

第31回日本ロボット学会学術講演会においても引き続き国際セッションを企画実施する。無料のまま継続するか、有料とするかは引き続き検討する。

## 2. 国際交流活動

- (1) ARSUサミット会議の継続的な開催(第8回)
- (2) アジアロボットサミットの合意事項の推進
  - ・若手研究者ネットワーク
  - ・ロボット教育プログラムの確立とその標準化
  - ・参加国の拡大

## 3. 国際会議関連

本会にかかわる国際会議の共催/協賛及び下記共催会議の運営への寄与とステアリング会議への代表の派遣を行う。

・RO-MAN2013, 日程:2013年8月26日~29日, 会場:Gyeongju(慶州), 韓国

・IROS2013, 日程:2013年11月3日~7日, 会場:東京

## 4. その他

- (1) 日本ロボット学会の国際化に向けた取組みの実施
  - ・対アジア外交における戦略の立案(協調と競争のバランス付け)
  - ・IROS, Ro-Man等の国際会議での日本ロボット学会の広報
  - ・英語による広報活動の展開(HP, パンフレット)
- (2) IROS 25周年企画
  - ・IROSが日本(東京)で開催されるので、RSJが出資して記念企画を実施する。実施内容は検討中。

## VII. 学術講演会(その他事業1)

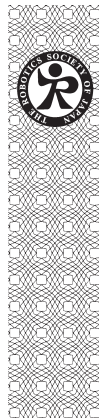
## 1. 学術講演会・シンポジウム等

- (1) 第31回学術講演会
  - 期 日:2013年9月4日(水)~6日(金)
  - 会 場:首都大学東京 南大沢キャンパス
  - 実行委員長:山口 亨(首都大学東京)
  - プログラム委員長:松日楽信人(芝浦工業大学)

## VIII. 講習会(その他事業2)

## 1. ロボット工学セミナー開講予定

- (1) 第76回ロボット工学セミナー「ロボットに利用できるコンピュータビジョン技術最前線:基礎から応用まで」
  - 期 日:2013年5月(予定)
  - オーガナイザ:木下航一(オムロン(株))
- (2) 第77回ロボット工学セミナー「ロボットの作り方2013~パソコンを使ったメカトロ制御実習～」
  - 期 日:2013年6月(予定)



- オーガナイザ：松浦大輔（東京工業大学）
- (3) 第78回ロボット工学セミナー「ヒューマノイドロボットを実用化する」  
期 日：2013年7月(予定)  
オーガナイザ：山本 江（名古屋大学）
- (4) 第79回ロボット工学セミナー「力覚を利用したロボット制御の実際」  
期 日：2013年9月(予定)  
オーガナイザ：中本秀一（株）東芝
- (5) 第80回ロボット工学セミナー「意味」や「状況」を扱うロボット技術～推論・対話・ビッグデータ～  
期 日：2013年10月(予定)  
オーガナイザ：田中秀幸（産業技術総合研究所）
- (6) 第81回ロボット工学セミナー「人の五感、スキルに迫る感性ロボット最前線」  
期 日：2013年10月(予定)  
オーガナイザ：野崎岳夫（日本電気（株））
- (7) 第82回ロボット工学セミナー「一挙手一投足」に反応する実世界インタフェース技術」  
期 日：2013年11月(予定)  
オーガナイザ：姜山（（株）富士通研究所）

2. 共催・協賛等

本会に関連する国内行事の共催・協賛・後援について審査を行う。  
国内共催事業（予定を含む）：

- (1) 第17回ロボティクスシンポジウム  
期 日：2013年3月14日(木)・15日(金)  
会 場：日本の宿 古窯（こよう）(山形県上山市)  
実行委員長：妻木勇一（山形大学）  
プログラム委員長：岡田昌史（東京工業大学）
- (2) 知能ロボットコンテスト・フェスティバル 2013  
期 日：未定  
会 場：未定
- (3) 第13回レスキューロボットコンテスト  
期 日：2013年8月9日(金)・11日(日)  
会 場：神戸サンボホール（兵庫県神戸市）
- (4) ロボカップジャパンオープン 2013  
期 日：未定  
会 場：未定

IX. その他

1. 第3回定時総会  
会 期：平成25年3月19日(火)  
会 場：本郷瀬川ビル
2. 委員会活動  
下記の委員会を開催する。

委員会名	委員長 (1月～3月)	委員長 (3月～12月予定)
会誌編集委員会	久野義徳	松野文俊
欧文誌委員会	金宮好和	新井史人
事業計画委員会	大矢晃久	吉田英一
国際委員会	松元明弘	長谷川泰久
研究協議会	浅間 一	次期副会長 2
出版事業委員会	大矢晃久	吉田英一
電子化運営委員会	小平紀生	次期副会長 1
アドバイザーボード	川村貞夫	次期会長
将来ビジョン策定委員会(次世代構想分科会)	川村貞夫	次期会長
事務局体制検討委員会	小平紀生	次期副会長 1
第31回学術講演会実行委員会	山口 亨	山口 亨
表彰委員会	浅間 一	次期副会長 2
第1回学会誌論文賞選考小委員会		次期副会長 1

第1回 Advanced Robotics Best Paper Award		次期副会長 1
第28回研究奨励賞選考小委員会	小平紀生	
第29回研究奨励賞選考小委員会		次期副会長 1
第18回実用化技術賞選考小委員会		次期副会長 2
第6回功労賞選考小委員会		次期副会長 1
第5回ロボット活用社会貢献賞選考小委員会		次期副会長 2
第3回ロボティクスシンポジウム研究奨励賞選考小委員会		次期副会長 1
外部表彰選考小委員会	浅間 一	次期副会長 2
会員5000名拡大計画委員会	小平紀生	次期副会長 1
著作権管理委員会	浅間 一	次期副会長 2
学術講演会管理推進委員会	浅間 一	次期副会長 2
30周年記念ロボット歴史アーカイブ小委員会	小平紀生	次期副会長 1

3. 役員の選出  
平成25年度の理事・監事を選出する。
4. フェロー、名誉会員の選任  
フェロー、名誉会員の推薦を行い選任する。
5. 学会の基盤強化  
会員の拡大、論文発表の活性化をめざし、広報活動、産業貢献活動の強化、学会誌の充実を通して、学会の知名度向上をはかる。また、非専門家が入会しやすいしくみの構築や認知活動、高齢者層会員、学生会員が会員継続したくなる価値の創出、若年層への啓発活動を継続実施する。
6. 電子化運営委員会  
(1) 学会DBをもとに、会員限定サービスとして、会員の個人情報データベース編集・検索機能を設け、さらに会員名簿の電子化を実施する。  
(2) 学会ホームページを通じた会員サービス拡大を目指し、コンテンツの拡充をはかる。
7. 規約等の制定・整備  
学会運営の効率化・適正化、会員の利便性向上に必要な規約等の制定・整備を適宜実施していく。
8. 将来検討  
本学会の将来展開に向けた方針や制度等に関する検討およびその具体化に取り組む。
9. 事務局  
中長期的な視点に立って事務局体制について検討・整備する。

【報告資料 2】

平成 25 年度予算計画

No.1

収支予算書 (損益ベース) 平成 25 年 1 月 1 日～平成 25 年 12 月 31 日 (公益事業)

科 目	実施事業等会計							小計 (A)
	継1 シンポジウム	継2 学会誌	継3 欧文誌	継4 調査・研究	継5 表彰	継6 国際	共通	
I 一般正味財産増減の部								
1. 経常増減の部								
(1) 経常収益								
特定資産運用益								0
特定資産受取利息								0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0	0
正会員入会金								0
学生会員入会金								0
受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0
正会員会費								0
学生会員会費								0
賛助会員会費								0
事業収益	0	24,000,000	1,380,000	0	0	0	0	25,380,000
申込金		0	0					0
参加費		0	0					0
懇親会参加費		0	0					0
展示料		0	0					0
講演概要集広告料		0	0					0
セミナー参加費		0	0					0
会誌掲載料		16,500,000	0					16,500,000
会誌広告料		5,500,000	0					5,500,000
会誌頒布収入		2,000,000	0					2,000,000
編集料		0	1,380,000					1,380,000
受取補助金等	0	0	0	0	0	0	0	0
受取国庫補助金								0
受取地方公共団体補助金								0
雑収益	0	0	0	0	0	0	0	0
受取利息								0
雑収益								0
経常収益計	0	24,000,000	1,380,000	0	0	0	0	25,380,000
(2) 経常費用								
事業費	2,953,000	34,199,515	7,000,000	3,779,000	9,077,770	5,807,000		62,816,285
給料手当	0	5,505,515	0	0	2,608,770	0		8,114,285
臨時雇賃金	100,000	43,000	0	212,000	4,029,000	16,000		4,400,000
退職給付費用	0	393,225	0	0	149,800	0		543,025
福利厚生費	0	551,775	0	0	210,200	0		761,975
旅費交通費	115,000	270,000	72,000	1,280,000	271,000	903,000		2,911,000
通信運搬費	150,000	5,000,000	79,000	17,000	103,000	24,000		5,373,000
消耗什器備品費	0	0	0	0	0	0		0
消耗品費	200,000	10,000	11,000	49,000	6,000	0		276,000
印刷製本費	220,000	17,000,000	0	320,000	0	600,000		18,140,000
賃借料	638,000	0	0	169,000	0	150,000		957,000
諸謝金	80,000	0	0	1,600,000	0	0		1,680,000
租税公課	0	642,000	0	0	0	0		642,000
支払負担金	0	0	2,520,000	76,000	0	114,000		2,710,000
委託費	1,150,000	4,784,000	4,280,000	0	0	0		10,214,000
雑費	300,000	0	38,000	56,000	1,700,000	4,000,000		6,094,000
管理費								0
給料手当								0
臨時雇賃金								0
退職給付費用								0
福利厚生費								0
会議費								0
旅費交通費								0

通信運搬費								0
消耗什器備品費								0
消耗品費								0
印刷製本費								0
光熱水料費								0
賃借料								0
保険料								0
支払手数料								0
諸会費								0
諸謝金								0
租税公課								0
委託費								0
雑費								0
経常費用計	2,953,000	34,199,515	7,000,000	3,779,000	9,077,770	5,807,000		62,816,285
当期経常増減額	-2,953,000	-10,199,515	-5,620,000	-3,779,000	-9,077,770	-5,807,000		-37,436,285
2. 経常外増減の部								
(1) 経常外収益	0	0	0	0	0	0	0	0
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0	0	0	0	0	0
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替額	0	0	0	0	0	0	0	0
法人税・住民税・事業税	0	0	0	0	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	-2,953,000	-10,199,515	-5,620,000	-3,779,000	-9,077,770	-5,807,000		-37,436,285

No.2

収支予算書 (損益ベース) 平成 25 年 1 月 1 日～平成 25 年 12 月 31 日 (その他事業)

科 目	その他会計				法人会計 (C)	内部取引消去	合計 (A) + (B) + (C)
	他1 学術講演会	他2 講習会	共通	小計 (B)			
I 一般正味財産増減の部							
1. 経常増減の部							
(1) 経常収益							
特定資産運用益				0	6,000	0	6,000
特定資産受取利息				0	6,000	0	6,000
受取入金	0	0	0	0	569,000	0	569,000
正会員入会金				0	90,000	0	90,000
学生会員入会金				0	479,000	0	479,000
受取会費	0	0	0	0	41,246,000	0	41,246,000
正会員会費				0	29,690,000	0	29,690,000
学生会員会費				0	4,756,000	0	4,756,000
賛助会員会費				0	6,800,000	0	6,800,000
事業収益	22,360,000	2,620,000	0	24,980,000	0	0	50,360,000
申込金	3,500,000	0		3,500,000			3,500,000
参加費	12,430,000	0		12,430,000			12,430,000
懇親会参加費	3,450,000	0		3,450,000			3,450,000
展示料	2,550,000	0		2,550,000			2,550,000
講演概要集広告料	430,000	0		430,000			430,000
セミナー参加費	0	2,620,000		2,620,000			2,620,000
会誌掲載料	0	0		0			16,500,000
会誌広告料	0	0		0			5,500,000
会誌頒布収入	0	0		0			2,000,000
編集料	0	0		0			1,380,000
受取補助金等	0	0	0	0	0	0	0
受取国庫補助金				0			0
受取地方公共団体補助金				0			0
雑収益	0	0	0	0	4,915,000		4,915,000





受取利息			0	54,000	0	54,000	
雑収益			0	4,861,000	0	4,861,000	
経常収益計	22,360,000	2,620,000	0	24,980,000	46,736,000	0	97,096,000
(2)経常費用							
事業費	19,826,525	2,325,000		22,151,525		0	84,967,810
給料手当	592,525	0		592,525		0	8,706,810
臨時雇賃金	2,015,000	154,000		2,169,000		0	6,569,000
退職給付費用	18,725	0		18,725		0	561,750
福利厚生費	26,275	0		26,275		0	788,250
旅費交通費	320,000	280,000		600,000		0	3,511,000
通信運搬費	120,000	132,000		252,000		0	5,625,000
消耗什器備品費	0	0		0		0	0
消耗品費	100,000	500,000		600,000		0	876,000
印刷製本費	3,297,000	154,000		3,451,000		0	21,591,000
賃借料	1,728,000	198,000		1,926,000		0	2,883,000
諸謝金	300,000	759,000		1,059,000		0	2,739,000
租税公課	330,000	93,000		423,000		0	1,065,000
支払負担金	6,002,000	22,000		6,024,000		0	8,734,000
委託費	4,617,000	0		4,617,000		0	14,831,000
雑費	360,000	33,000		393,000		0	6,487,000
管理費							
給料手当				31,004,190		0	31,004,190
臨時雇賃金				0	7,752,190	0	7,752,190
退職給付費用				0	3,488,000	0	3,488,000
福利厚生費				0	187,250	0	187,250
会議費				0	762,750	0	762,750
旅費交通費				0	356,000	0	356,000
通信運搬費				0	2,000,000	0	2,000,000
消耗什器備品費				0	1,645,000	0	1,645,000
消耗品費				0	0	0	0
印刷製本費				0	639,000	0	639,000
光熱水料費				0	591,000	0	591,000
賃借料				0	325,000	0	325,000
保険料				0	7,226,000	0	7,226,000
支払手数料				0	6,000	0	6,000
諸会費				0	504,000	0	504,000
諸謝金				0	335,000	0	335,000
租税公課				0	1,534,000	0	1,534,000
委託費				0	46,000	0	46,000
雑費				0	3,145,000	0	3,145,000
経常費用計	19,826,525	2,325,000	0	22,151,525	31,004,190	0	115,972,000
評価損益等調整前 当期経常増減額							
評価損益等計							
当期経常増減額	2,533,475	295,000	0	2,828,475	15,731,810	0	-18,876,000
2. 経常外増減の部							
(1) 経常外収益	0	0	0	0	0	0	0
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0	0	0	0	0
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0
税引前当期一般 正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替額	0	0	0	0	0	0	0
法人税、住民税 及び事業税	0	0	0	0	70,000	0	70,000
当期一般正味 財産増減額	2,533,475	295,000	0	2,828,475	15,661,810	0	-18,946,000

## 【第3号議案】

## 平成25年度役員の内

日本ロボット学会定款第5章、役員選任規程および役員候補推薦規程に従い、下表右列の13名を平成25年度新役員として推挙したい。

任期	平成25年度役員		
	平成23年3月～ 平成25年3月	平成24年3月～ 平成26年3月	平成25年3月～ 平成27年3月
理事	川村貞夫		小平紀生
理事	小平紀生		高西淳夫
理事	浅間 一		大隅 久
理事	長瀬雅之	塚越秀行	岩城 敏
理事	本田幸夫	大明準治	細田祐司
理事	武藤伸洋	三治信一郎	塩沢恵子
理事	木口量夫	加賀美聡	小林 宏
理事	久野義徳	松野文俊	田中一男
理事	金宮好和	新井史人	尾形哲也
理事	大矢晃久	吉田英一	尾崎功一
理事	田中孝之	山口 亨	倉爪 亮
理事	松元明弘	長谷川泰久	前田雄介
監事	佐久間一郎	榊原伸介	油田信一